

由比 YUI

海の幸(駿河湾名産桜えび、倉澤定置網のあじ)・山の幸(みかん・びわ)に恵まれた由比地区は、東海道五十三次の16番目の宿場町として栄えてきました。ゆいの語源は「結」という字で表していて、いろいろなものを結ぶもの「仲良く、睦み合う、助け合う」の意味を持っていたと言われています。



富士山の見える景勝地

「薩埵峠」

薩埵峠は古来より富士山を望む景勝地として名高く、江戸時代から難所の峠として古くから日記、紀行文に取り上げられています。また浮世絵師歌川広重の「東海道五十三次」(保永堂版)「由井」の面影を残す所で、みどり豊かな嶺が自然の姿を見せています。



△浜石岳から見た晩秋の富士

「浜石岳」

由比の北側に位置し、標高707mでゆっくり歩いても3時間、家族・グループで気軽に登れるのが浜石岳です。頂上は360度の大パノラマが広がり、東に富士山、南に駿河湾と伊豆半島、北には南アルプスの山並みと、絶景とはまさにこの風景です。

由比地区で行われる祭り

由比街道まつり



由比本陣公園をメイン会場として、由比産業振興会が主催する祭りです。由比川から本陣公園までを歩行者天国とし、ステージショー・大道芸・早駕籠レースなど多彩なイベントと各種露店やフリーマーケットで賑わっています。

本年は10月20日(日)
午前10時～15時に開催されます。



由比本陣公園▶

由比桜えびまつり

毎年5月3日に「日本一桜えびのまち由比」として由比漁港で開催されています。会場内には、特産桜えび、しらす製品や農産物・地場産品の特売や飲食コーナーのほか桜えび漁船による駿河湾遊覧などのイベントが設けられています。また由比駅～由比川までの1.5kmが歩行者天国となり地元商店による沢山の売店が設けられます。なお駐車場が少ないのでJRでの参加をお勧めします。



御日待祭典

毎年10月には由比各地で氏神様をお参りする御日待の祭りが開催されますが、中でも由比今宿地区では、東西より電飾や提灯で飾られた2階建の山車が出発し太鼓や鐘の音のなか街道を練り歩きます。途中擦れ合ふときは東西の山車がぶつかり合い迫力満点な祭りです。本年は10月13日(日)に行う予定です。

しづおか自治連だより

平成25年4月1日現在人口719,188人 自治会・町内会数960

守り伝えよう!世界遺産「富士山」と「三保松原」



平成25年6月、富士山はプロンペンで開催された第37回世界遺産委員会において世界文化遺産への登録が決定しました。そしてICOMOSが除外を勧告していた三保松原も構成資産に含めての登録です。

「三保松原」は、万葉の昔から白砂青松と霊峰富士の眺望の素晴らしさで全国にその名を知られています。

これまでにどれほどの日本人がこの景色に感動し、魂に刻んできたかは現代に伝わる数多くの詩歌、絵画が如実に証明しています。

何百年にもわたり愛され続けてきた所以、それはそれが本物であるからとしか表現できません。人間が理屈抜きに本当に素晴らしいもの、美しいものを欲する以上、この地は人間を惹きつけて止まない魅力に溢れています。古今東西、老若男女を問うことなく、全ての人が一度は訪れたい、憧れの地、羨望の地となりうる吸引力を持っているのです。

そして、その魅力は、「富士山」と一体となることで完成度が高まります。

登録前に、「三保松原」が構成資産から除外を勧告された理由の一つは、富士山頂から約45キロメートル離れているということでした。それが構成資産に含まれて世界遺産に登録されたのはなぜでしょうか。

第一に、「三保松原」からの富士山の眺望、あるいは「三保松原」と富士山が描かれた絵画が多く残されていることです。

例えば、「富士三保清見寺図」伝雪舟、「富士山図」狩野

探幽、「富士三保松原図」狩野山雪、「東海道五十三次」「六十余州名所図会」歌川広重、「松原富士」「朝陽富士」和田英作などがあります。

第二に、多くの歌人・著名人が、「三保松原」を歌枕に作品を残していることです。

例えば、

「夕日影入海すずし沖つ風松にこたふる三保の浦波」 読人不知

「蘆原の清見の崎の三保の浦のゆたけき見つつものひもなし」田口益人

「きよみ潟ふじの煙や消えぬらん月影みがく三保の浦波」 後鳥羽院

「諸人のたち帰りつつみてや闇に向へる三保の松原」 豊臣秀吉

「松原の色あくまでも清して海に愁いの留る夕ぐれ」 与謝野晶子

第三には、富士山信仰の一部と考えられていたことです。

例えば、富士山信仰の象徴的な「富士曼荼羅図」狩野元信印、登拝の案内図や参詣図「富士禪定図」「富士山社堂行所図」など、信仰や参詣の様子が描かれた絵図の多くに「三保松原」が描かれています。

このように、「三保松原」は、芸術の源泉・信仰の対象として、富士山との関係性が深く、構成資産としてふさわしい価値があると言えるのです。

今回の世界文化遺産登録はゴールではありません。「富士山」とその構成資産を守るための新たなスタートです。

世界の宝となった「富士山」「三保松原」を皆様の力で、後世に末永く引き継いでいきましょう。

✿ 葵区 オクシズ～梅ヶ島日影沢金山跡を訪ねて～



▲復元された金山坑道の入口



▲金鉱石をすり潰した擂り石

平成25年7月14日の日曜日、私たち広報編集委員(市川高明、高橋邦男、望月英臣)の3名は地元の鈴木英次さんに案内していただき、安倍川上流に位置する梅ヶ島温泉郷から2km下った日影沢金山跡を訪ねました。梅ヶ島温泉は静岡市の中心から路線バスで約90分の市内から奥座敷的な位置にあり、南アルプス南部の八絃嶺、大谷嶺、山伏などの安倍奥の山々の登山基地ともなっています。

駿河は、古来より全国有数の金の産出地として知られていましたが、駿河における金の採掘が文献上に現れるのは南北朝時代(14世紀)以降のことです。その頃の史料には採掘場所として、安倍川や大井川の上流部のみならず、安倍川中流域の地名も見られました。中世においては「安部の金山(安部山)」といえば、梅ヶ島や井川だけでなく大河内地区、賤機地区を含めた広い領域を示していたようで、広い範囲で金の採掘が行なわれていました。

日影沢金山は有力な戦国大名であった今川、武田、徳川と三代に渡って掘られた金山で16～17世紀には多量の金を産出していました。

まず、今川氏が軍事的にも文化的にも戦国の時代をリードする武将になり得た背景のひとつに金山の存在がありました。7代目今川氏親の時代には室町幕府や公家に度々黄金を贈っていたことが明らかになっています。安倍奥の「黄金の谷」が、中央勢力との結びつきを強固なものにし、東海地方における絶大なる権力を維持していくための基盤になっていました。



▲砂金取り

今川時代の金の採掘方法ですが、7代目氏親の時代までは、砂金の採掘が主で、川の流れを利用して砂金を採取する川金と、河岸段丘などの砂金が堆積している場所で採取する柴金がありました。

9代目今川義元の時代になると、金鉱石から金を精錬する「灰吹き法」という技法が広まり、金鉱脈を掘り進める坑道掘りが主流となります。この技術が導入されたことにより、金の採掘量も飛躍的に増大しました。梅ヶ島の日影沢金山はその中心的な産出地のひとつでした。

日影沢金山では、江戸時代中期(18世紀)ころまで盛んに金の採掘が行われていました。日影沢の金山跡を訪ねると、ハイキングコースが整備されており、90分ほどで一周しながら、奉行屋敷跡や金掘衆の墓、復元された坑道跡などを見学することができます。



▲「八幡神社跡と康申塔」の説明看板

✿ いろいろあるよ!駿河区の施設

駿河区には歴史と文化に育まれた様々な施設があります。休みの日にはご家族で、あるいはご友人やお知り合いを誘って、駿河区でゆっくり過ごしてみませんか?

週末は
駿河区で
楽しもう



久能山東照宮



登呂遺跡

徳川家康公を祀るために建造され、本殿、石の間、拝殿が平成22年に国宝に指定されました。

平成27年には家康公没後400年を迎えるため、注目されているスポットです。

多くの文化財を所蔵する「久能山東照宮博物館」も設置されています。



日本平動物園



©日本平動物園



駿府 匠宿

昭和44年8月1日に開園した日本平動物園は、施設が老朽化したため、園内の改修整備事業に着手し、猛獣館299やフライングメガドーム等の施設を整備してきましたが、すべての事業が完了して、平成25年4月2日にグランドオープンしました。ホッキョクグマのロッシーとバニラや、レッサーパンダ、アジアゾウ等の人気者達が皆さんを迎えてくれます。

静岡市には、駿府城建設のため全国から集まった優秀な職人の技が今日まで受け継がれています。駿河竹千筋細工や駿河漆器といった伝統工芸の技を手軽に体験できる施設として、駿河区丸子に建設されました。竹染工房、陶芸工房、おもしろ体験館の各施設で、様々な工芸品の製作を体験できます。